

令和 8 年度 第 1 回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会

《日程》令和 8 年 6 月 3 日(水) 15:10～

《会場》市庁舎

— 次第 —

開会
あいさつ
委員紹介

議題

- 1 横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会の委員長の選出
- 2 令和 7 年度第 5 回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録の確認
- 3 会議の公開について

報告

- 1 事業評価の実施方法について
- 2 令和 8 年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会開催日程
- 3 その他

- 資料 1 令和 7 年度第 5 回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録案
- 資料 2 事業評価の実施方法について
- 資料 3 令和 8 年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会開催日程案
- 資料 4 3 つの Zoo みらいプロジェクトについて
- 参考資料 令和 8 年度管理運営実施計画書（データ）
横浜市動物園等の指定管理者の選定及び評価に関する要綱（データ）
横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会運営要綱（データ）
横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会委員名簿

令和 7 年度 第 5 回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 会議録	
日時	令和 8 年 3 月 27 日（金）13：30～16：00
開催場所	市庁舎 17F 会議室
出席者	（委員）小宮輝之委員長、間曾さちこ委員、佐渡友陽一委員、藤崎晴彦委員、儀賀良之委員
開催形態	非公開
議 題	1 令和 7 年度第 4 回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録 2 令和 6 年度事業評価報告書について 3 令和 8 年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会日程案について
報 告	1 よこはま動物園ホッキョクグマの死亡について 2 その他
議事	【議題 1】 令和 7 年度第 4 回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録 異議なし 確定 【議題 2】 令和 6 年度事業評価報告書について 異議なし 確定 【議題 3】 令和 8 年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会日程案について ・（事務局）現時点案のため、今後変更する可能性もあることを了承いただきたい。 異議なし 了承 【報告 1】 よこはま動物園ホッキョクグマの死亡について ・今まで健康状態に問題はなかったのか。 →（指定管理者）日々のトレーニングにより無麻酔下で採血できるようになっていたため、事前に血液検査により健康状態を把握しており、十分な健康状態だったと考えている。 ・ゴーゴは社会的にかなり有名で、大阪の民間事業者から天王寺動物園が寄附いただいたもので、怒りを感じている方も多いと聞いている。 そういった方々に技術的な弁解をしても、うまく伝わらないのではないかとと思うが、どうか。 →（事務局）広聴等でも悲しみの声や様々なご意見が寄せられている。現時点で知り得ていることを包み隠さず公表すること、しっかり検証して、再発防止につなげることが、一番の要望だと受け止めている。今後、病理検査の結果なども、しっかり情報公開していく必要があると考えている。

	繁殖が妥当なのか、動物福祉に反していたのではないかという声もあり、丁寧に説明しなければならないと考えている。動物園の使命として、繁殖計画に則った繁殖と、根底にある動物福祉へ取組、これらをしっかり両立させなければならないと感じており、本市と指定管理者で、一緒に取り組んでいくべきだと考えている。 こういった点について、委員の皆様の知見の中で、ご指導をいただきたい。 ・ ゴーゴは繁殖実績もあり、とても有名で人気のある個体。死亡の一報を知った直後から、X等には多くの情報が投稿されており、かなり攻撃的な投稿も多かった。 この年齢で移動が適切だったのか、JAZA 生物多様性委員会と十分に検証していただきたい。投稿には真偽不明のような情報や園長へのかなり攻撃的な投稿も多く見られ、一人の人の人生を奪うくらいの攻撃的な投稿もあり、施設の責任者だからといっても、そこまで言われるのか、と感じた。 ・ 国内では、ホッキョクグマの麻酔下での採精は何例くらいあるのか？ →（指定管理者）国内の飼育下のホッキョクグマ 30 頭ぐらいおり、繁殖に適するオスのうち採精できていないオスはゴーゴだけだったと聞いている。 ・ その中では、このような事態に至ったのは初めてで、それがゴーゴだったということは非常に不幸なことだった。 ・ 動物に麻酔をかけて処置をする際に、リスクがゼロではないことは仕方のないこと。博物館経営論的な視点では、コレクションマネジメント、つまり、生きている動物をどう扱うかという技術的なことがベースである。この点に関しては、指定管理者の専門性が高く、専門家として当然、技術的に可能な限りリスクを減らすことはやっているし、それは信頼するしかなく、今後も技術をできる限り高めることはお願いしたい。 ・ 今回の問題は、そうした技術的な側面のことではなく、コミュニケーションマネジメントであり、市民感情をどう取り扱うか、ということだと考える。端的に言うと、「指定管理者は、動物を扱う技術だけでなく、横浜市の動物園において動物を扱うにふさわしい徳、倫理を備えた団体である」という信頼感を得られるかということ。そこを踏まえて、どのように市民感情と向き合って、信頼感を担保しうるかを考え、報道発表をしてほしい。 ・ リスクマネジメントにおいて、記者会見のタイミング、内容というのは非常に重要な問題。今回、記者会見をしていないが、横浜市としてどう考え、いつ「しない」と決めたのか。 →（事務局）一報を受けた時点でのリスクマネジメントが十分ではなかったと、今のご指摘を聞いて、改めて感じた。市役所の感覚としては、こういった事案や事故報告を行う場合には、記者会見をするのではなく、事実関係を正確にお伝えするという視点になる。今回もそういった視点で、この事例を取り扱った、というのが経緯。今後、報道発表含め、みなさまに事実をしっかりお伝えするのに適した手法を検討していきたい。
--	--

	• 一般的に、記者会見は情報が全て出そろってから1回でやるのがよく、情報が揃うまでは待つという段階があってもよい、という考え方がある。そういう意味では、今回の第2報、第3報を段階的に出したことが正解だったのかを検証し、同じやり方で第4報を出すことが正解なのかをきちんと検討すべき。 コミュニケーションマネジメントとは、感情と向き合うことであるので、科学的に物事と向き合い事実を包み隠さず出すだけでは足りない。これをきちんと認識したうえで、記者会見をやるのか、別の手段とするのかを、きちんと検討すべき。 →（事務局）第2報には、指定管理者とも調整し、園長からのメッセージを掲載した。今後の第4報に向けて、今いただいた意見をもとに、どういうコミュニケーションが良いのか、しっかりと考えていきたい。 • 今回、ゴーゴが万が一死亡した場合に、情報発信をどうするかについて、事前に決めていなかった、という理解でよい。 →（事務局）決めていなかった。 • 動物の移動は、死のリスクがゼロになることはない。だから、万が一、死んでしまったときの対応を念頭に置いたうえで動くべきだと思う。それを全く想定せずに、事後的に対応せざるを得ない状況を作ったことは、リスクマネジメントの観点から、不適切だった、と言わざるを得ない。 • 人気のある個体だったので、ショックを受けている人も多いだろうし、何も知らずに発表される情報だけ見ると、単なる事故ではなく、不適切な取り扱いがあったのでは、と見えてしまう。事故の経緯は技術的な面からもきちんとした説明が必要だが、だからこそ誤解を招くことも想定されるので、一般の方に理解してもらうのは難しいということも前提に、どのように受け止められるかを想像しながら説明しないと誤解をまねくだろうと思う。 • 情報管理については事前の対応がしっかりできていれば、今こういう状態にはなっていないと思う。企業などでも、初手がどうだったかということで、その後の印象、社会的な評価が大きく変わる。 一般市民からすると、突然ゴーゴが死亡して、その後、段階的に発表資料が出てきて、その後写真展となると、こちらの表情が伝わらないので、「関係者は本当に悲しんでいるのか」、「血の通ったやりとりじゃない」という印象をおそらく受け、納得いかない感情が残ってしまうのではないかな。生き物を扱うところでは、感情で動く部分があるので、通常の事故以上に、感情面に対する対応が必要ではないかな。 この後の対応では、起きたことと、その対応、原因というより、それに対して、自分たちがどう考えてきたのか、ということをもう少し伝わりやすくしてほしい。 • 動物に限らず、備品・施設などで、事故があった場合などの、危機管理、初動や説明の手法などについての市のマニュアルはあるのか。
--	---

→（事務局）例えば公園でも事故があれば、管理瑕疵の有無に関わらず、記者発表をする。まずは事実関係をお知らせする。市の責任の有無が明確に伝えられる場合は、明確に伝える。例えば、警察の捜査中や被害者のプライバシーに関することがある場合には、報道のマニュアルに沿って発表の対応をしている。今回も、そうした事例を参考にしながらの対応だったが、人気のある動物の死亡ということで、市のマニュアルでは合わない部分があったということだと思う。事前のマネジメント不足はあるかもしれないが、指定管理者と連携を取りながら、一緒に対応していくことはできたと考えているし、今も対応は続いているので、今日いただいた意見も含めて、しっかり対応を考えていきたい。

- ・役所の危機管理はすぐに再発防止に行き過ぎ、ゼロリスクにしようとするが、動物を絶対に死なせない、ということはある程度得ないので、リスクをいかに保有するかということ。法的な責任を問われているのではなく、動物園の当事者の悲しみ、心が伝わる対応が求められている可能性が高い。報道が分かりやすい言葉で伝えてくれるので、報道関係者が納得できる場を作れるかも大切。通常の役所の危機管理とは少し違う、そうした視点で、コミュニケーションマネジメントを考えることが必要なのではと思う。

→（事務局）役所としては、動物に対する責任がある以上、「動物の死亡リスクはゼロにならない」「我々も悲しい」と言うことが、逆に言い訳に聞こえてしまうと考えていた。その中で、正確に事実関係を伝えるというのが、最初のコミュニケーションのスタートだった。今回新たな気づきをいただいたので、コミュニケーションとしてどういう手段が取れるかを、指定管理者と相談して、対応していきたい。

- ・今回の事案に限らず、動物を扱う以上、終末期の安楽殺のように、何らかの理由で、動物を死に至らしめなくてはならないこともある。今回の経験を踏まえ、そういった場合も含めて、きちんとコミュニケーションできるノウハウを、これから磨いていかなければいけない。
- ・この件は、横浜市民に限らず、全国的に問題になっていて、横浜の動物園の評判を落とすことにもつながる。横浜市民だけに説明すればよい、4報を出せばよい、というのではなく、もう少し真剣に対応した方がいいかなと思う。

【報告2】

その他

（シシオザル舎内逸走について指定管理者から説明）

- ・「OJTや研修をしっかりとやっています」とよく聞くと、動物園業界に長くいると、研修が盛んなところほど実は普段の管理がしっかりできていない証拠のように感じることもある。やはり自分の目と手で扉の確認をするということに尽きる。自動的に締まる仕組み、のような対策はかえっていけない。なかなか解決策が難しいのは事実だが、ずいぶん続いてしまっている。

	・今回の件では、すぐ後に、別のところでガイドの対応予定があったとあり、一般的に、イレギュラーなことが起こったり、直後に別の予定があったりすると、注意が散漫になり得る。人員配置や業務の組み立てにあまり余裕がないのかなという印象もあるが、もう少し工夫できないのか。 →（指定管理者）今回は、ガイドの予定があったことと、動物が小競り合いをしたという状況もあって、少し焦った部分があったと思う。そういう場合にはガイドに間に合わなくても、まずは安全に動物を収容する、目の前の動物のリスクに対応することが最優先であり、周囲に連絡して対応する、ということを改めて周知した。あわせて、基本的な飼育作業の徹底を、改めて注意喚起した。 ・情報が整理されてこういう場に報告されていることは、リスクマネジメント上、ヒヤリ・ハットの共有という意味で重要であり、その点は評価したい。 ヒヤリ・ハットの共有の目的は重大インシデントを防ぐことだが、今回の事案は、最悪の場合こういった重大インシデントになり得たのかについては、どう評価しているか。 →（指定管理者）最悪の事態としては、構造的につながっている隣の獣舎に、別の職員が気づかずに出入りして、動物が舎外に出てしまう可能性や、その職員が負傷する可能性があった。シシオザルは大きくない動物なので今回は被害はなかったが、別の動物であれば今回の対応では済まないと思うので、重大な事故だという認識。 ・今回は、職員の重篤な負傷・死亡といった重大インシデントには至らなかった、ヒヤリ・ハットの「ハット」だった。それをきちんと共有して、対応をしており、比較的きちんとリスクマネジメントされている事案ではあるが、再発防止に努めてほしい。 ・今回の事案を受け、隣の獣舎との間に扉を付ける対応をしたとのことだが、動物逸走時に、まず連絡をすることの徹底が必要。逸走を知らずに別の職員が作業することで、園内逸走、下手すると園外逸走という重大インシデントが起こりうる。 ・現場で何か問題が起きたときに、他の職員に連絡する手段や仕組みはあるのか。 →（指定管理者）職員が無線機を所持しており、無線機についている緊急時用のボタンも状況によっては使うことになっている。 ・今回、担当職員はなぜ即座に連絡しないで、自分で対処してしまったのか、は重要な点だと思う。「対応する前に、まず連絡」というマインドセット的な話だが、そこについて、何か聞いているか。 →（指定管理者）ガイドの時間があって焦っていたのと、飼育の担当者だったので、ある程度安全な距離感を把握していたこともあり、対処可能と思い込んでしまった。 ・「問題に気付いたら、まず報告」ということの普段からの徹底はどの業務でも共通だと思う。
--	---

配布資料	資料 1 令和 7 年度第 4 回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録（案） 資料 2 令和 6 年度指定管理者事業評価報告書（案） 資料 3 令和 8 年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会開催日程案 資料 4 ホッキョクグマ「ゴーゴ」の死亡について（第 1 報）～（第 3 報）

事業評価の実施方法について

1【現在の評価方法】

本市の動物園指定管理者に対する評価は、本市職員による評価と、選定評価委員による評価の合計点で、「S」「A」「B」「C」の4段階評価としています。

職員による評価は、3動物園と動物園調整課の4部署を対象に行い、その評価項目は、仕様書にそった業務実績の評価と、指定管理者が提出した年度実施計画書の目標の達成度に対する評価と指定管理者が取り組みを自由に記載する項目の評価の合計点で評価します。

そこに、選定評価委員5名が5項目について、5点満点持ち点25点で評価し、その合計点と本市職員による評価の合計点を合計して、SABCの4段階で事業全体の評価とします。

2【評価方法、配点基準の課題】

① 指定管理期間が10年間と長期に及ぶため、仕様書や評価基準が時流にそった柔軟な対応が困難。

昨年までの10年の指定管理期間においても、この間に動物福祉の考え方が浸透し、10年前に比較しても重要度が増加したことなど、10年もの長期間では公共施設・博物館施設・公園施設としての動物園の在り方を取り巻く状況が変化するため、都度柔軟に対応する必要がある。

② PDCA サイクルを意識した評価になっていない。

この評価方法の課題は、各項目の結果のみを報告させているため、目標に至らない結果であっても、途中過程で得た成果、次年度に向けた原因究明や改善策などに取り組んだ行為や至らなかったことが事業者の責によらなかった場合の評価がしにくい。

③ 配点基準が継続の重要性などを評価しにくい

現状の配点基準（資料2、6ページ）は、0～3点の4段階です。最高配点の3点の配点基準は「仕様書等で求める水準を上回る工夫や実績、大幅な改善等を行った」であり、日報やカルテの管理など日常的な管理業務では、大幅な改善は想定しにくく、当該項目だと評価しにくい。

④ 公園管理分野の評価割合が小さい

野毛山動物園と金沢動物園は、公開している公園部分も指定管理エリアに含まれている。野毛山動物園は、動物園・園地全体で9.1ha、動物園部分は3.3ha。金沢自然公園は、総面積約58ha中、動物園部分は約13haとなっている。横浜市としては、市民の福祉向上のために供されている公共施設としての公園が、安全・快適に管理されているか、また都市型の野毛山公園と郊外型の金沢自然公園それぞれの特色を発揮しているかなどを適切に評価する必要がある。しかし、現状では公園の管理状況の評価項目が少ない。

⑤ 自主事業も含めた収支構造の評価がされていない。

収益事業の評価は商品開発などが中心となり、収益構造、収支の結果などが評価されていない。

⑥ 委員が6名になったことによる配点基準の改善が必要。

3【今後の検討方法】

検討方法ですが、今後、第3回委員会開催（11月頃予定）までのメールやリモート打合せで委員の皆様とも意見交換をしながら、第3回委員会で改善の概要をお示しし、第4回委員会（1月中旬を予定）で最終案をお示しして年度内に決定していきたいと考えています。

■事業評価 自己評価の採点の目安

1 仕様書等の基本項目

- ・概ね以下を目安として採点してください。

3点	仕様書等で求める水準を上回る工夫や実績、大幅な改善等を行った、など
2点	仕様書等で求める水準で業務を行った
1点	仕様書等で求める水準で業務が実施できなかった、など
0点	仕様書等で求める業務が実施できなかった、など

2 事業効果

(1) 目標に対する結果、取組状況等

- ・目標ごとに概ね以下を目安として採点してください。

配点：目標への達成状況 5点＋評価の視点に基づく加点 5点 計10点

【達成状況 採点の目安】

5点	目標を大きく上回るなど、顕著な実績を上げた、など
4点	目標を上回る実績を上げた、など
3点	目標を達成できた
2点	目標が達成できなかった、など
1点	目標を大幅に下回った、など
0点	目標に関する取組を実施していない、など

(2) 自由記述項目

- ・項目ごとに概ね以下を目安として採点してください。

配点：各項目3点×5項目 計15点

3点	新たな工夫や管理運営の改善への大きな貢献など、事業への大きな効果があった、など
2点	取組により管理運営が改善されるなど、事業への効果があった、など
1点	取組んではいるが、事業への効果があまりなかった、など
0点	取組による事業への効果がなかった、取組が行われていない、など

3 運営及び経営の取組計画

動物園の役割「種の保全、調査・研究、環境教育、レクリエーション」に関する事業を、国内外の動物園のみならず多様な関連組織と連携、協力しながら実施し、その成果を広く世界に向けて発信します。また、令和8年度から繁殖センターの指定管理が3動物園の指定管理に加わったことにより、繁殖センターの調査・研究のノウハウを3動物園と共有し、種の保全を効果的に進めるとともに、繁殖センターと3動物園を一体運営することで、スケールメリットを活かした管理運営を行い、組織の活性化を図ります。これらにより、絶滅の危機にある野生動物の生息環境や生物多様性保全に貢献するほか、市民・来園者の皆さまに地球環境保全のための行動変容と社会改革を促します。

また、横浜市が進める「3つのZOO みらいプロジェクト」に協力し、子どもを中心に、多様な体験や学びの場を創出するとともに、横浜の都市としての魅力やブランド力の向上に繋がります。横浜市が行う野毛山動物園リニューアルを踏まえた動物移動等の準備や休園前のイベント企画等に取り組みます。更に「GREEN×EXPO 2027」に向け、各園でポスターの設置やパンフレット・入園チケット等へロゴマークを掲載します。金沢動物園では区役所等のGREEN×EXPO 2027 関連企画と連携し、園で実施するZoo to Wild Fesをはじめとしたイベントやノベルティグッズの配布等を行います。

また、集客宣伝活動により来園者数を増やすとともに、来園者や企業団体等との関わりをより深め、支援につなげることで、入園料収入と自主財源を増やし、より良い動物園経営を目指します。

(1) 目標

① 入園者数

来園者の方々が安心して施設を利用いただけるよう、動物園運営やサービスについて多様で魅力ある体験ができる自主事業を企画実施するほか、利用者の皆様のニーズを捉えた飲食物販事業を展開します。

園名	目標人数	令和7年度来園者数（見込）
よこはま	105 万人	103 万人
野毛山	45.5 万人	49 万人
金沢	28 万人	27 万人

※野毛山はリニューアル工事のため、年度内に休園期間を設ける可能性があるため、目標入園者数を調整しています。

※令和7年度来園者数（見込）は、令和7年2月末日現在の試算です。

② 種の保全（国内外の希少野生生物種の保全の取り組み）

（公社）日本動物園水族館協会（以下、「JAZA」という。）や環境省、全国の動物園等と連携し、実効性のある保全活動に取り組むとともに、独自に海外施設等との連携を進めて飼育下個体群の維持を進めることを目標として、目安として年度単位で13種指定します。生息域外保全施設としてアニマルウェルフェアに配慮しながら、飼育動物の移動や繁殖等の飼育管理により、飼育下個体群の遺伝的多様性の保持に努めます。海外からの動物収集については、横浜市の動物園基金を活用します。

令和8年度の目標	【目標】スマトラトラ・オカピ・ライチョウ等13種について、種の保全に取り組む 【取組】主に以下について取り組みます。 ＜海外希少種で保全に取り組む種＞ ① スマトラトラ：GSMP*に沿った海外からの個体導入およびペアリングの実施（新規） ② オカピ：SSP**に沿ったペアによる繁殖（継続） ③ ヤブイヌ：EEP***に沿ったペアリングの実施（継続） ＜累代繁殖を継続するため、海外との収集、交流に取り組む種＞ ④ ヘサキリクガメ：国際血統登録者（兼EEP調整者）と協力して、同種の保全に関する各種情報の収集、及び台湾・台北市立動物園と希少動物の繁殖に協力し、友好関係を構築するため、希少カメ類の個体交換の実施。 ⑤ インドライオン：海外からの収集に向けた情報収集、国際血統登録者への飼育報告（継続） ⑥ コアラ：オーストラリアとのアンバサダー契約に基づき、飼育報告書の提出や個体導入のための継続的な調整を実施（継続） ⑦ テングザル：インドネシアとの保護協定に基づき、飼育報告書の提出や繁殖のための継続的な調整を実施（継続） ⑧ ユーラシアカワウソウ：海外導入個体を用いたペアリングの実施（新規） ⑨ オオツノヒツジ：海外からの個体導入調整の実施（新規） ＜日本産希少種で保全に取り組む種＞ ⑩ ツシマヤマネコ：人工授精の取組及び繁殖生理に関するデータ収集の実施 ⑪ ニホンライチョウ：展示による普及啓発及び環境省の生息域外保全プロジェクトへの参画 ⑫ ミヤコカナヘビ：飼育下繁殖技術と科学的・獣医学的知見の集積への協力及び展示による普及啓発 ⑬ アマミトゲネズミ：飼育下繁殖技術確立および展示による普及啓発
----------	---

*GSMP：世界動物園水族館協会（WAZA）が策定する国際種管理計画

**SSP：北米動物園水族館協会（AZA）が策定する種保存計画

***EEP：欧州動物園水族館協会（EAZA）が策定する欧州絶滅危惧種計画

③ 環境教育プログラム

市民に対し、動物たちの生息環境や生物多様性保全の重要性を学び、持続可能な社会の構築を目指す環境教育プログラムを提供します。プログラムは、教育現場の要望に対応するだけでなく、社会情勢も加味し、動物園としての教育目標を反映させていきます。

令和8年度の目標として、日常的なガイドに加え、より専門的な講演会・連続講座等における環境教育を目的としたプログラム参加者数（学校プログラム以外）を3園で年間30万人とします。

資料3

令和8年度 横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会開催日程案

実施月 (予定)	第1回	第2回	第3回	第4回
	6月3日	8月下旬	11月上旬	1月中旬
モニタリング				モニタリング報告
事業評価	R7年度評価方法について、 会議の公開について、 委員長の選定等	R7年度事業評価		
R8年度 事業評価 (R9年実施)	課題の共有		事業評価案案提案	評価方法の決定
事業計画	R8年度実施計画書(配付)			
見学等	金沢動物園		よこはま動物園	
指定管理者出欠		出席		

・見学等は集合形式での実施となりますが、その他については集合形式とWEB形式を併用して実施する予定です。

CITY OF YOKOHAMA

3つのZOOみらいプロジェクトを 始動します

～横浜の3動物園の魅力向上に向けた取組～

2026年1月7日
市長定例記者会見



横浜市

3つのZOO

みらいプロジェクト
YOKOHAMA

自然と学びが
いっぱい
金沢動物園

ここにしかない
特別な体験
ズーラシア

もっと
こどもが楽しく
野毛山動物園



横浜市は
18区と3動物園。

みんなあつまる
みんなふかまる
みんなあにまる

野毛山動物園 NOGEYAMA

まちなかにあり、はじめて動物と出会う場所。
動物を間近に感じ、遊びと学びがあふれる動物園へ。



ーもつと
こどもが楽しく

3つのZOO みらいプロジェクト



こどもが動物を間近に感じられる展示



リニューアルした野毛山のエントランスショップ



動物の真似をしたり
同じ環境で遊ぶことができる展示



こどもにも人気のマヌルネコを導入
(ズーペリエンタ！センターで飼育予定)

金沢動物園 KANAZAWA

横浜の豊かな自然を身近に感じ、
こどもたちと一緒に学べる動物園へ。



— 自然と学びがいっぱい

3つのZOO みらいプロジェクト



横浜の豊かな自然を学ぶ
展示施設のリニューアル



地域の子どもたちと行う“身近ないきもの調査”



自然を感じながらくつろげる空間の創出
(休憩棟のリニューアルなど)



捨てずに活かす
動物園を中心とした“資源の循環”

よこはま動物園
ズーラシア
ZOORASIA

世界の自然につながり、特別な体験ができる動物園へ。
世界の動物の命を、未来へつなぐ動物園へ。



—ここにしかない
特別な体験

3つのZOO みらいプロジェクト

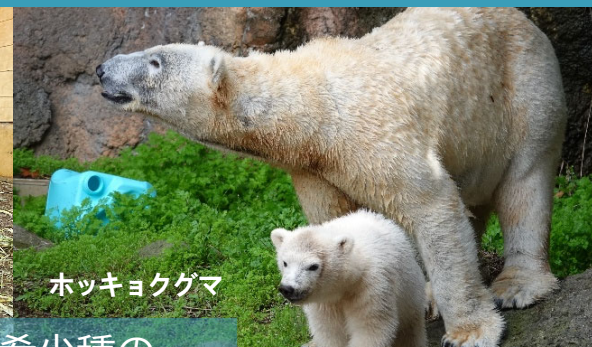
“観光拠点”としての新たな魅力の創出
(国内外からの誘客)



動物の不思議に迫る特別なプログラム



オカビ



ホッキョクグマ

世界の希少種の
保全につながる取組



インドライオン



ヘサキリクガメ



動物の生息環境を感じられる
観覧スペースの磨き上げ

共通Concept 1

観光の “拠点” としての役割

Sightseeing / Entertainment / Experience

動物園は観光の拠点としての役割も担っています。何
度でも訪れたい「ここにしかない」特別な体験
を提供し、横浜の魅力向上に貢献することが期待されて
います。動物園での驚きと楽しさ溢れる体験のなかで、
こどもの心に気づきや関心が生まれます。



3つのZOO みらいプロジェクト

共通Concept 2

環境教育の “発信地” としての役割

Environmental Education

動物園は、動物福祉に配慮した飼育・種の保全や環境教育を通じて、生物多様性保全に貢献しています。来園者が動物園での体験により、野生生物や自然環境を取り巻く状況に目を向け行動するようになることは、社会の意識を変える第一歩となります。一今、動物園にはその役割と可能性が、これまで以上に期待されています。



3つのZOO みらいプロジェクト

令和8年度から3動物園での魅力向上の取組を
順次進めていきます。

3つのZOO
みらいプロジェクト
YOKOHAMA

ズーラシア 金沢動物園 野毛山動物園